

# 神田日勝記念館 だより



神田日勝記念館

〒081-0292 北海道河東郡鹿追町東町3丁目2 TEL (01566) 6-1555



馬(絶筆) 1970年

## Contents

- 2 第六回 蕪壱祭
- 3 第八回 馬耕忌  
子どもワークシヨップ
- 4 グループ環展・  
新出紀久雄の水彩画・山本時市遺作展
- 5 第六回 馬の絵作品展
- 6 馬の絵作品展審査所感  
馬の絵写生会
- 7 感想ノートより
- 8 新規購入・寄贈作品紹介  
今後の事業予定  
編集後記

2000.10.20

13

## 第六回 蕪壱祭

六月十七日／神田日勝記念館・鹿追町民ホール

広々とした洋庭に並べられたライトに浮かび上がる幻想的な館影。記念館の開館を祝う日勝ファンと町民の思いに支えられて、第六回目を数えた開館記念祭。本年は特に東京で活躍するアマチュアコーラスの玉川グリーン・ハーモニーとコール・サファイアの総勢六十名の本格的な合唱が彩りを添えました。日本合唱指揮者連盟理事長の辻正行先生と地元そよ風コーラスの指揮者松里充氏の交流が生んだ今回の演奏会、そよ風コーラスとの合同演奏も実現し、合唱の魅力が聴衆が満喫したひとときでした。

恒例のワインとチーズの交流会では、実行委員の女性会員の山菜料理も提供され、アンコール演奏が披露されるなか、会場全体に参加者のスクラムが生まれ、参加者が一体となった意義ある集いとなりました。



▲北海道電力の協力で記念館をライトアップ

# 子ども ワークショップ たのしい ペーパークラフト

8月11日(金) 鹿追町民ホール

夏休みの暑い日差しの中、小学生を対象に、子どもワークショップ「たのしいペーパークラフト」が開催されました。帯広市児童会館図工クラブ講師である成瀬登先生を講師に迎え、サンバイザーや、本物そっくりの小鳥や昆虫を、一枚の紙を切ったり、のりで貼ったりして作りました。最初はカッターやはさみの使い方が上手くできなくて、苦労していた人もだんだんできるようになり、夢中になって作りました。



でき上がったサンバイザーは実際に日よけ用の帽子にもなり、今回集まってくれた21人全員で被って記念撮影をしました。



## 第八回 馬耕忌

八月二十七日(日)

神田日勝が亡くなった八月二十五日に近い日曜日に、その生涯と画業を顕彰する催しとして始められた「馬耕忌」も今年で八回目。



日勝の画業と人生は、馬とともに生き、馬とともに闘い続けた一生であったという信濃デッサン館館主窪島誠一郎氏の命名によりスタートしましたが、徐々に定着してきたようです。今年は今までの三部構成から、講演会と散文朗読というシンプルな形式に改めました。町民ホールで開催中の「山本時市遺作展」に関する熊代弘法氏による紹介があり、引き続き正木基氏の「神田日勝の戦後」と題する講演が行われました。正木氏は気鋭の美術評論家で、札幌の北海道立近代美術館在職中に、画家深井克美を見出し、現在は東京に拠点を置き、美術、漫画、映画、人形など広く戦後視覚芸術全般に対する評論活動を展開している方です。日勝作品の部分を拡大撮影したスライドを写し、神田ミサ子さんとの一問一答も交え、独自の視点による日勝論を展開されました。この講演を元にした「馬耕忌講演録」



は、後ほど発刊の予定です。講演に引き続き、田中光俊氏のギター演奏が行なわれる中、加藤多一著『雪がふる』より都甲雅子さんによる朗読があり、昨年来のコンビで息の合ったものになりました。

会場を移しての交流会では、山本時市氏のご遺族も加わり、友の会の会員有志がじゃがいもやとうもろこし、スイカなどを持ち寄り、例年ながらの心暖まる焼き肉パーティーになりました。



# 具象絵画の展開 — 展覧会事業



「鳴く鳥のこえ澄みにけり」

小樽出身で、国際的に活躍する水彩画家  
新出紀久雄氏の代表作を集めた個展。か  
つて「曹友」の表紙絵を描き、鹿追町の自  
衛隊第五師団と関係の深い新出氏の本町で  
の二回目  
の展覧会  
には、近  
作ばかり  
でなく、  
個人所蔵

## 新出紀久雄の水彩画

八月十二日～二十日



「だんだんと近き山なみ黒緑なり」

作品の他、海外の美術館の収蔵作品も展示  
され、美しい透明水彩の世界が来観者を魅  
了していました。

## グループ環展

四月二十九日～五月七日



道展・全道展・新道展等に  
所属する画家十二名が、具象  
絵画の魅力を多くの方々に伝  
えたいという思いから公募展  
の枠を越えて結成したグルー  
プ「環」。今回は札幌で開催さ  
れた第一回展の移動展で、各  
作家が油彩の近作三点づつを  
出品。道内で著名な作家の作  
品が来観者の目を引きつけて

いました。  
オープニング  
記念として四月  
二十八日にはグ  
ループの代表世  
話人である橋本  
禮三と菅訓章学  
芸員による対談  
「芸術と街創り」  
が行われました。



## 山本時市遺作展

8月22日～28日

かつて鹿追中学校で美術教師として教鞭をとり、絵画を通して神田日勝と交流のあった画家山本時市氏。生前その薫陶を受けた池戸繁氏の奔走により集成された作品群による遺作展が開催され、多くの仲間や教え子たちがその作品世界に浸りました。寺島春雄や神田日勝との交流、晩年傾倒したモランディなどの影響がみられ、作品制作の足跡が偲ばれる展覧会となりました。



「作品No.1」



「ひまわり」

# 第六回 馬の絵作品展

募集期間 7月15日(土)～ 9月 4日(月)  
 覧覧式 10月4日(水)～10月10日(火)  
 表彰会 10月7日(土)  
 会場 鹿追町民ホール

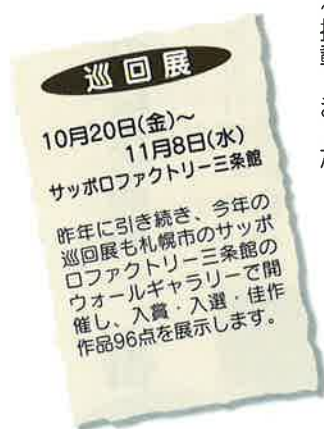


神田日勝が馬とともに生活し、数多く描いていたことにちなみ、小中学生を対象に開催している馬の絵作品展も今年で六回目を迎えました。

今回は応募総数が一、三三三点で、鹿追町内と十勝管内を合わせて三〇六点、道内から九一九点、道外からは全国ホースサミット加盟市町村を始めとして遠く宮崎県の二点を含め一五四点もの作品が寄せられました。審査の結果、入賞十三点、入選三十二点、佳作五十一点が選出されました。今回から新設された文部大臣賞には釧路市立景雲中学校三年生の大高翼さんが、北海道知事賞には釧路町立富原中学校二年の及川真理佳さんの作品が選ばれました。

十月四日～十日までの会期中には、応募作品全てが会場の鹿追町民ホールに展示され、馬の絵でいっぱいになりました。十月七日には表彰式が行われ、賞状と楯が渡されました。

なお、審査副委員長の出村英和先生の講評を掲載しました。



文部大臣賞受賞作品



北海道知事賞作品



北海道教育委員会教育長賞作品

## 入 賞

- 文部大臣賞  
釧路市立景雲中学校 3年 大高 翼
- 北海道知事賞  
釧路町立富原中学校 2年 及川真理佳
- 北海道教育委員会教育長賞  
小樽市立潮見台小学校 1年 うめだ えりな
- 鹿追町長賞  
盛岡市立黒石野中学校 (岩手県) 2年 紺野 祥子
- 鹿追町教育委員会教育長賞  
下川町立上名寄小学校 5年 尾淵 衆美
- 神田日勝記念館長賞  
小樽市立稲穂小学校 3年 町野 絵里
- 北海道新聞社賞  
千歳市立泉沢小学校 3年 島影 美里
- NHK帯広放送局長賞  
鷹栖町立北野小学校 2年 山本 朋
- 十勝造形サークル委員長賞  
豊頃町立茂岩小学校 4年 山田 美輝
- 帯広市教育研究会図工美術部会長賞  
鹿追町立瓜舞小学校 6年 宮下 律子
- J R北海道社長賞  
羽幌町立羽幌中学校 3年 田中 尚子
- 北海道電力帯広支店長賞  
芽室町立芽室小学校 2年 荻原 初夏
- 帯広信用金庫理事長賞  
標茶町立磯分内中学校 3年 勝呂 綾



# 馬の絵写生会

8月2日(水)鹿追町ライディングパーク



馬の絵作品展の関連事業の一環として、子どもたちに馬の絵を描く機会を提供するために、夏休み中に写生会が鹿追町ライディングパークで開催されました。昨年に引き続いての炎天下の中、集まってくれた6人の小学生は、講師の脇坂裕先生とともに、馬に草を与えたり、体験乗馬をしたりしながら、馬をスケッチしました。なかなか馬がじっとしてしてくれず、描くのに苦労しましたが、馬の仕草や目、表情などじっくり観察することができました。



をじっくりと眺めました。なだらかな傾斜地は、今は所有者が代わり、かつての面影はありませんでしたが、子どもたちは、農耕馬が耕した話を興味深く聞き入っていました。



神田日勝記念館、第六回馬の絵作品展の審査終了。今年度も津々浦々遠くは宮崎県から、一、三、七、三、三、三の応募がありました。（昨年より八十五点多く）全作品展示できるか心配でした。



く迫力満点、幻想的な馬等々が、個性的に伸び伸び表情豊かに描かれた作品に引き込まれました。一点一点馬の臭いが漂い、引き付けるものがあり、各賞の判断に喧々、審査員を悩ませました。

文部大臣賞の「青」（黒色の馬を

あおと呼ぶ）は毛並みの表し方と色、馬特有の優しい目の表現、迫力ある画面に感銘しました。日勝と馬「馬の絵作品展」が永遠に充実、発展するよう努力します。



## 第六回 馬の絵作品展

審查所感

出村英和

## 感想ノートより ⑪

4/23

この春から、十勝で農業に携わることにいたしました。  
 日勝の絵は、土の色がずいぶんです。  
 自然の中に、生かされている、埋没している自分を  
 考えずにいられます、そんな感じになりました。 あまニ

12, 4/30(日)

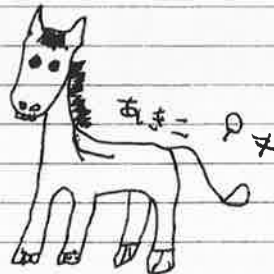
、神田 日勝さんの絵は、はじめて見た時から、**大好き**  
 でした。馬は、馬で、好きなのですか、日勝さんの絵は、なんとも、  
 ちょっと、ちがうものを、感じます。かんじう...  
 また、来ます！ き、と、い、や、ん、き、た、い！ また、この絵を見たい。  
 今度、学校で、馬の絵を、書く時が、くるらしいので、さんこうに、さ  
 せていただきます。 スゴい、た、ス！  
 またくるぜん！ サラッ！

by 旭川市 沢田 元斗 (116, 12才)

5/3

初めて来ました。  
 うまの目がやさしい。たてです。

10才 いとこ



連れてまわっていただきました。純粋に感謝です。不承子、いつまで  
 感謝する心を忘れずに大人になつてほしいと思います。  
 また機会があれば連れてまわりたいと思います。この日は14才で...  
 雨の日のために、いこもあまの母。

Sun, June 11, 2000

何となくここに来たいと思い、数少ない交通機関を利用して来ました。  
 絵を観た瞬間、足がすくまりました、正座されました。  
 せかせかと過ぎていく毎日で、ここにきて少したれることが  
 できました。あの馬の目を見つめていると、バカをうてかかっている  
 ような、でもいっしょにバカをうてかかになる... そんな気がします。

kame 2

## 今年度新規購入作品・寄贈作品紹介



「離農」(油絵)

四月に新たに購入された「離農」(油彩)は、神田日勝が亡くなる前年の昭和四十四年頃の制作と推定され、手前に広がる枯れた草地と中央の屋根のないサイロ、低く垂れ込めた雲の流れから、ひとけのない廃屋を連想させます。同時期に描かれた独立展や全道展出品のためのベニア板に絵の具を叩き付けるようにして描かれた作品群とは対照的な、静謐な雰囲気を与えています。

一方の作品は、鹿追町民ホールで開催された山本時市遺作展の折に、遺族から寄贈されたものです。山本氏は、鹿追中学校に



(版画)

美術教師として勤務していた当時、日勝と絵を通して交流がありました。昭和三十八年作「板・足・頭」(油彩)と構図が似通っており、なんらかの関連があるものと思われる。なお、この作品は凹版技法で制作されたようで、ドライポイントの特徴である、線のスクラッチ(ひっかき)によるインクのにじみが見られます。

今後の  
事業予定

- ・芸術鑑賞バスツアー(11月5日)
- ・絵画教室(2月)
- ・子ども芸術鑑賞ツアー(12月10日)
- ・子どもワークショップ(冬・春休み)
- ・子ども絵画教室(冬休み)

## 編 集 後 記

年に2回発行している神田日勝記念館だよりを初めて担当させていただくことになりました。紙面の一部カラー化に伴い、徐々に編集方法を刷新する予定です。

開館して7年目、神田日勝の画業を顕彰する

ためのさまざまな催しー常設展示・特別企画展・蕪壑祭・馬耕忌・馬の絵作品展などを通して、神田日勝の人と作品を巡る同心円的な流れができつつあるように思われます。この記念館だよりに対するご要望や、ご意見も是非お寄せください。(K)